



平成25年8月9日

**「未来医療研究人材養成拠点形成事業」の選定結果**

本年度から開始する「未来医療研究人材養成拠点形成事業」について、別紙のとおり選定事業を25件決定しました。

**1. 事業の背景・目的**

本事業（平成25年度予算額：22.5億円）では、急速に進展する高齢化等に伴う医療課題の解決に貢献し、国内外の医学・医療の発展を強力に推進するため、下記のテーマA・テーマBについて、新規性・独創性の高い特色ある取組にチャレンジする大学の事業を選定し支援します。

**【テーマA】メディカル・イノベーション推進人材の養成**

本テーマは、世界の医療水準の向上及び日本の医療産業の活性化に多大に貢献するため、世界の最先端医療の研究・開発等をリードし、将来的にその成果を国内外に普及できる実行力を備えた人材（イノベーションを推進できる人材）を養成することを目的とします。

**【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成**

本テーマは、国民が将来にわたって安心して医療を受けられる環境を構築するため、地域の医療機関や市町村等と連携しながら、将来の超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った優れた総合診療医等を養成することを目的とします。

**2. 事業概要**

選定件数：テーマA・テーマBあわせて20～25件程度

補助金額：1件につき5千万円～2億円程度／年

事業期間：平成25年度から5年間以内（予定）

**3. 選定結果（詳細は別紙のとおり）**

【テーマA】メディカル・イノベーション推進人材の養成 10件（申請件数38件）

【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成 15件（申請件数59件）

## 【テーマB】リサーチマインドを持った総合診療医の養成

申請件数:59件 選定件数15件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	東北大学		コンダクター型総合診療医の養成
2	国	筑波大学		次世代の地域医療を担うリーダーの養成
3	国	千葉大学		超高齢社会に対応する総合診療医養成事業 ～地域と大学でロールモデルを継続的に育てる仕組みを作る～
4	国	東京大学		新しい大学ー地域間連携での研究人材育成
5	国	新潟大学	新潟医療福祉大学 新潟薬科大学	オール新潟による『次世代医療人』の養成
6	国	富山大学		地域包括ケアのためのアカデミックGP養成
7	国	三重大学		三重地域総合診療網の全国・世界発信
8	国	大阪大学		地域に生き世界に伸びる総合診療医養成事業 ～超高齢社会を切り拓くリーダー型高度医療人養成～
9	国	島根大学	神戸大学 兵庫医科大学	地方と都会の大学連携ライフイノベーション
10	国	岡山大学		地域を支え地域を科学する総合診療医の育成
11	国	九州大学		地域包括医療に邁進する総合診療医育成 ～九州大学総合診療科を活用した総合的臨床とヘルスサービスリサーチ教育プログラム～
12	国	長崎大学	長崎純心大学	つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築 ～人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成～
13	公	札幌医科大学		北の地域医療を支える総合診療医養成プラン
14	公	名古屋市立大学	名古屋学院大学 名古屋工業大学	地域と育む未来医療人「なごやかモデル」
15	私	東京慈恵会医科大学		卒前から生涯学習に亘る総合診療能力開発 ～地域における臨床研究の推進を目指して～

## 未来医療研究人材養成拠点形成事業 申請書

申請担当大学名 (連携大学名)	富山大学		
テーマ	テーマB	申請区分	単独事業
事業名 (全角20字以内)	地域包括ケアのためのアカデミックGP養成(20字)		

事業責任者 連絡先	職名・氏名	医学部長 村口 篤
	TEL	076-434-7251
	FAX	076-434-5019
	E-mail	gucci@med.u-toyama.ac.jp
事務担当者 連絡先	職名・氏名	医薬系総務グループ長 羽広孝司
	TEL	076-434-7006
	FAX	076-434-1463
	E-mail	habi@adm.u-toyama.ac.jp

### 1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵1枚)を【様式2】の後ろに添付すること。

#### (1) 事業の全体構想

##### ①事業の概要等

〈テーマに関する課題〉

富山県の医療において、地域性の課題として**高齢化**(平成22年度の国勢調査では26.2%)、**医師数の地域格差**、**地域医療の崩壊**、**診療科の偏在**(特に産婦人科、小児科、救急科)がある。また、包括性の課題として医療・保健・福祉・介護の連携不足と生活支援体制の不備がある。

このような状況下で、富山大学附属病院総合診療部は、5年前、最も早く医療崩壊が進んで廃院となった南砺市の福野厚生病院を「南砺家庭地域医療センター」と改名し、地域で総合診療医を育てる人材育成の場として診療を再開した。更に、~~499~~住民参加型の地域医療システムを構築するために、南砺市と協力して「南砺市地域医療再生マイスター(人材)養成講座」を開講し、その後「南砺の地域医療を守り育てる会」を立ち上げて、地域の住民・行政・医療職と大学が協働して地域医療の再生に取り組んだ。昨年度までの4年間で、地域医療再生マイスターという人材を166名養成し、南砺市民病院の医師数を増加させ、訪問看護・リハビリの活性化と看護師数を増加させた。さらに、地域包括支援センターと住民グループが認知症対策を積極的に開始するなど、顔の見える**住民参加型システム(南砺市モデル)**を構築した。現在、この南砺市モデルを、都市部の富山市へ適応し、さらには富山県全体で住民参加型の地域医療システムを構築する計画が提案されている。

地域包括ケアシステムを「南砺市モデル」から「富山市モデル・富山県モデル」へ、さらに我が国の「**未来型地域包括ケアシステム**」へと展開するためには、富山大学に「**とやま総合診療イノベーションセンター**」を立ち上げ、地域包括ケアシステムの**養成ゾーン**(教育・研究・政策)と**実践ゾーン**(医療・保健・福祉・介護・生活支援と地域住民の多種職連携)を一本化し、米国で提唱されている**地域・大学パートナーシップ**(Community Campus Partnership for Health)を構築する必要がある。そのためには、それぞれが**リサーチマインド**を持った、優れた臨床能力を有する総合診療医と、**教育・研究・政策**が担当できる総合診療医の両者の養成が急務である。以下、本事業では、リサーチマインドを持った総合診療医を「**アカデミックGP**(General Physician)」と呼称する。

以上、総括すると、本事業は富山の地域医療再生の実績と強みを活かし、富山県、地域の医療機関、医師会、市町村等と連携しながら、**地域医療の現場の臨床研究**(Community based participatory research)を遂行し、**地域包括ケア**の課題に対応できるアカデミックGPを養成することを目的とする。

〈事業の概要〉（400字以内厳守）

本事業では、地域包括ケアシステムを構築するために、富山大学に「とやま総合診療イノベーションセンター」を設置し、富山の地域医療の養成ゾーン（教育・研究・政策）と実践ゾーン（地域医療・多職種連携）を一本化する。そのために、養成ゾーンと実践ゾーンの各々を専門とするリサーチマインドを持ったアカデミックGPの養成を行う。人材養成は、ステップ1（医学生）で地域医療の理解と研究マインドの涵養を行い、ステップ2で専門医取得の準備をし、ステップ3で総合診療ライセンス（専門医）を取得、ステップ4（インテンシブコース）でアカデミックGPの育成を行う。総合診療以外の専門医の転職や女性医師の復帰支援として、ステップ4から参入を可能とする。本事業は、富山大学、県、市町村、医師会、地域医療機関、多職種医療関係者、および住民によるオール富山で取り組む。

②新規性・独創性

1. 「オール富山による地域包括ケアシステムの構築」の新規性・独創性

- ①大学、自治体、医師会、医療機関、多職種医療関係、県民100万人のオール富山で取り組む点。
- ②地域包括ケアシステム構築のために、養成ゾーン（教育・研究・政策）と実践ゾーン（地域医療・他職種連携）を一本化して、オール富山・地域包括ケアシステム（Community Campus Partnership for Health）を構築し、我が国の未来型地域包括ケアシステムの創成を目指す点。
- ③富山大学の実績として、「南砺市地域医療再生マイスター事業」（住民参加型の地域包括ケア推進事業）、「神通川・万葉プロジェクト」（地域医療再生事業）、「舟橋村歩行圏コミュニティープロジェクト」などの地域包括ケアの取り組みが進んでおり、本事業と協働できる点。
- ④富山大学大学院の臨床研究・疫学のエキスパートや、富山在住で全国的に知名度の高い「富山型デイサービス」の惣万佳代子氏や、「ものがたり診療所ナラティブホーム」の佐藤伸彦氏などの在宅医療・高齢者医療・在宅看取り・緩和ケアの逸材が、本事業の人材養成に参画する点。
- ⑤大学の学部横断的プロジェクトとして、医学部・芸術文化学部・工学部・人間発達科学部、地域連携推進機構「産学連携部門」が連携し、地域包括ケアシステムを推進する点。
- ⑥小児から大人までのオールラウンドなアカデミック総合診療医を育成することで、富山県の喫緊の課題である小児科、産婦人科、救急科の医師不足への対応ができる点。

2. 「アカデミックGP人材養成プログラム」の新規性・独創性

- ①基本は、ステップ1から4までのステップアップ方式で、医学生からGP育成までの一貫性があり、かつ事業終了後も継続できる持続可能な人材養成プログラムである点。
- ②転職（他科専門医）・復帰（女性医師）希望者が、ステップ4からプログラムに参入できる点。
- ③プログラムのアウトカムが、包括ケアシステムの構築のための「養成ゾーンアカデミックGP」と「実践ゾーンアカデミックGP」の二つに具体的に絞られている点。
- ④事業推進のために、医学部長の下、医学部・附属病院のすべての関連診療科と寄付講座、大学院医学薬学研究部さらに富山大学地域連携推進機構が総力を挙げてオール富山大学で取り組む点。
- ⑤ステップ1で、介護体験実習や泊まり込み臨床実習及び研究室での基礎研究演習を通じて、地域医療の課題を考察できるアカデミックGPの卵を育成する点。選択制臨床実習は外国でも可能である点。
- ⑥ステップ2で、初期研修の段階から「ライセンス準備プログラム」を設置して、研修医のローテーションの選択肢を広げている点。
- ⑦ステップ3で、総合診療専門医と総合内科専門医の二つのタイプの専門医を養成する点。
- ⑧ステップ4（リーダー育成）で、実践ゾーンのための4コース（外来診療スペシャリスト・転職/復帰支援、総合診療+専門科（本学の伝統の和漢診療学を含む）、在宅医療スペシャリスト、ホスピタリスト）と、養成ゾーンのための3コース（教育者養成、研究者養成、コーディネータ養成）を設け、個人の将来設計の幅を広げている点。
- ⑨ステップ4において、海外医療施設（ハワイ大学・トロント大学など）との連携を強化し、国際交流を推進させることで国際性豊かで視野の広いアカデミックGPの養成を行う点。

# 地域包括ケアのためのアカデミックGP養成拠点 (富山大学医学部)

課題  
 ・超高齢化、医師数の地域格差、地域医療崩壊、診療科偏在  
 ・養成ゾーン(教育・研究・政策)と実践ゾーン(地域医療・多職種連携)の乖離

対応

オール富山・地域包括ケアシステムを構築するために、大学に総合診療イノベーションセンターを設置し、アカデミックGPを養成し、養成ゾーンと実践ゾーンを一本化して、現場の課題を研究し、解決する。

## CIGM-Toyama

とやま総合診療イノベーションセンター  
 Center for innovation of general medicine in Toyama



センター運営委員会

事業評価委員会  
 学内委員+学外委員

アドバイザーボード  
 学外委員

### コーディネーター担当部門

コーディネーター養成、課題調査  
 研究担当部門

研究者養成、疫学・臨床研究  
 教育担当部門

教育者養成、外来診療、入院診療  
 転職・女性医師復帰支援

### 専門研修担当部門

救急医療、産婦人科、和漢診療、  
 他の専門診療科

コース修了認定委員会 厳格な修了認定

## アカデミックGP養成プログラム

2つのゾーンのアカデミックGPが地域医療の現場の課題を研究し、課題を解決する

To achieve "community based participatory research"

実践ゾーンアカデミックGP  
 (地域医療・他職種連携)

アウトプット

養成ゾーンアカデミックGP  
 (教育・研究・政策)

実践ゾーンへ  
 20名/5年

アカデミックGP修了

養成ゾーンへ  
 12名/5年

### アカデミックGP育成

2年間

ステップ4  
 (インテンシブ・コース)

総合診療  
 フェロウシップ  
 ○実践ゾーンGP養成  
 ○教育ゾーンGP養成

⑩コーディネーター (C) 養成コース  
 ⑨研究者 (R) 養成コース  
 ⑧教育者 (E) 養成コース

⑦ホスピタリストコース  
 ⑥在宅医療スペシャリストコース  
 ⑤総合診療+専門科コース  
 ④転職/復帰支援コース

転職(専門医)  
 復帰(女性医師)

実践ゾーン

評価、次ステップへ

### 専門医養成

5年間

ステップ3 後期研修3年  
 ステップ2 前期研修2年

③ライセンス取得コース

②総合診療医コース  
 (ライセンス準備コース)

評価、次ステップへ

### 初学者支援

6年間

ステップ1 (学生教育)  
 地域臨床実習(全学生)  
 特別枠・地域枠

①地域医療臨床実習コース  
 1・2年:介護体験実習、課外研修  
 3・4年:地域医療の講義、課外研修  
 5年:地域連携型臨床実習  
 6年:選択制臨床実習  
 1-6年 特別枠・地域枠のためのキャリアパス

## オール富山・地域包括ケアシステム

### 実践ゾーン 地域医療・多職種連携

5職種、市町村・住民



### 養成ゾーン (教育・研究・政策)

"Community Campus  
 Partnership for Health"



地域・大学一本化

高齢者  
 南砺市モデル

【住民参加型ネットワーク作り】  
 保健医療、福祉、生活支援関係者との連絡協議会の設置

・富山市・富山県モデルへ!  
 ・さらに、日本の未来型地域  
 包括ケアシステムの創成へ!